

キャンプ活動

沖縄県立玉城青少年の家



テント設営・底上げ・撤収



三角テント

(子ども6人用 ※大人なら約5名)



運動広場(10張～)
～150人程度の大人数向き



テントサイト(10張まで)
50人程度の小団体向き

キャンプ泊で準備するもの

★普段の宿泊必需品

(動きやすい服と靴、飲料、着替え、シャンプー、石鹸、バスタオル、歯磨きセット等)

★帽子

★ぞうきん (1人1枚、又は、テント1張につき2枚以上)

★懐中電灯

★救急箱

★緊急時名簿 ※提出の必要はありません

★虫よけ (必要に応じて)

★班の名前 (ナンバープレート) 用段ボール、吊りひも、マジック等 (必要に応じて)



注意事項

- 体調が悪い時は無理せず申告、日陰で休む。
- 水分補給、熱中症対策を忘れずに。
- キャンプ用具は大切に丁寧に扱きましょう。
 - ・破損を見つけたらその場ですぐ申告、破損させてしまった場合も必ず報告。
 - ・用具の紛失が無いよう、引率者責任の下、しっかり管理。用具入れの袋、ペグの本数には、要注意！
- テントは必ず乾かしてから収納すること。
内部の湿気、外側の水気は、ぞうきんで拭く。



テント設営

テント設営は、約2時間設けてください

炊飯棟に集合。

用具室から取り出す用具の紹介。

約5分

用具を取り出し、各班の設営ポジションを決めて用具セットを置く。

約15分

当所職員の説明&デモンストレーションで、引率者と共に一斉設営。

約25分

各班に分かれテント設営。引率者と当所職員でフォローアップ。

約50分

各班でテント完成の実感を味わいつつ休憩。シート等を各テントへ。班ナンバープレートをつける等。



テント用具室から班ごとに必要用具を取り出す。
用具室は狭いので一班ずつ順番に取っていく。



棚やテント袋には、番号があるので、
返却する時の場所を確認しておく。



この3点セットを取り出す。

※テント内のクッション用に敷く銀マットは完成後に取り出す



引率者が指揮して、各班のテント設置場所を決め、用具セットを置く。隣のテントと5mは離しましょう。

全員が中央に集合し、当所職員と引率者4名による
デモンストレーション兼、説明。

引率者はこの時に手順を確認し、各班での設営時
に児童をフォローできるように再確認しておく。



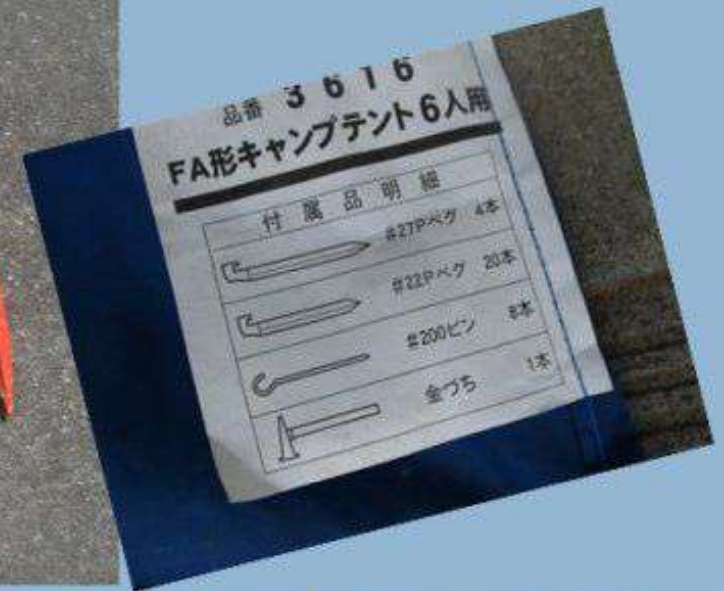
用具確認①（本体とフライシート：2点）

破損が無いか広げて確認 収納袋は、紛失しないように管理！



用具確認②（ポール：4点）

先端が針状2点、先端がフック状2点 確認



用具確認③（ペグ・ハンマー）※収納袋タグで本数を確認
特に**ペグの本数**はしっかりと確認！！！！



テント本体には
金属製ピンペグを使う

合計8か所

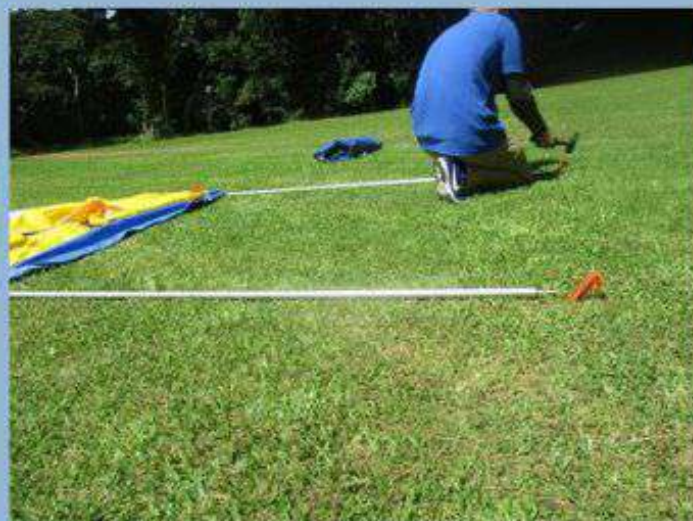
1) テント本体を広げ、当日の風向きに気を配り、入り口の向きを決める。まず、たるまないように4人で四隅を引っ張りつつピンペグを打ち、次にサイド2か所ずつもピンペグ打ちをする。



ペグを打ち込む角度と向きに注意。

打ち込みすぎると、抜く時に苦労するので頭部分は約5cm出す。

ハンマーでふざけない。ハンマーは良い角度で打つ。



長いほうのオレンジペグ4本は
テントを支える支柱の張りロープを
かける重要な役割をする

2) ポール（針状）をつなぎ、本体の両側のサイドラインの延長上に、平行になるようポール（針状）2本を置く。その先端あたりに長いほうのオレンジペグを斜めに打ち込む。逆サイドも同様に。



3) 先端がフック状のポール2本をのぼして合体させる。
このポールは、三角テントの屋根部分を支える背骨の役割をする。
2名で協力しながら、本体真ん中の筒状袋へポールを通す。



4) テント本体の上に、フライシートをかぶせるように置く。
この時、フライに付いている白い突起（2か所）が、本体入口の
中央にくるように置く。



ポイント

ポールを通す時にフライのロープは全てポールの外側にあるように気をつけること

5) 声をかけ合い協力しつつ、両サイド同時に、針状ポールの先端を本体2か所とフライ1か所の計3か所に通し、テントを立ち上げる。

この時、本体とフライを目の高さまで持ち上げながら、通していかねば、ポールの針状先端が曲がって破損してしまうので要注意！



6) 両サイド同時に、テント本体の下部にある白い突起に
ポールの下部を差し込む。



7) フライシートから伸びている張りロープ2本（両サイドで4本）の先端を、先ほど打ち込んだ長ペグにかける。ロープの長さを調整するオレンジ色の調整具でロープにテンションをかけていき、両サイドのポールが真っすぐになり、倒れないように張る。



8) テント本体のサイドロープ（計10本）を、ペグを打ちながら張っていき、テントを膨らませる。まずは四隅のロープから、次に、周囲を張り、調整具でテンションをかける。



9) 同様にフライシートのサイドドロープ（計10本）も、ペグを打ちながら張っていく。フライシートは特にたるまないように引っぱりながら張る。



10) 完成!!!

断熱クッション用の銀マット（アルミマット）2枚と
シーツ、荷物を搬入する。



1 1) テント収納袋を忘れずに片づける。

本体を入れる一番大きい収納袋に、ポール用とペグ用の収納袋を入れて、軽くたたんでから、なくさないようにテントの中に入れておく。

テント底上げ

楽しかったテント泊・・・

翌日は早朝6:00に起床し、テントの底上げを行う。

底上げとは・・・

地面からの湿気、植物の呼吸、人が放出した熱や水分、気温差などで、テントの底が濡れているので、それを乾かすために行う作業。

起床から底上げまでの手順

- ・洗面、トイレ等を済ませ、すばやく身支度を整える。
- ・荷物を全部テントから出し、指定の場所へ持っていく。
- ・銀マットは外へ出し、風で飛ばされないようにして裏返して乾かす。乾き次第、ロール巻きし、数を確認後、用具室へ。
- ・シーツは回収袋へ。 ※朝食時などに本館へ持っていく
- ・テント収納袋は、なくさないように各班で管理しておく。
- ・テント内に何も残っていないか（特に懐中電灯、帽子など）。
- ・テント出入り口のメッシュやカバーをロールアップしている場合は、全ての結びをほどく。
- ・テント内のゴミなどをぞうきんで外へ出しきれいにする。



1) テント本体のペグを全て抜く。

(本体ピンペグ8本、本体のサイドロープのペグ10本のみを抜く)

**重要：支柱張りロープを支えている長ペグ4本と、
フライシートのペグ10本は、抜かない、触らない。**



ペグの抜き方

ハンマーの釘かけの部分を使い、てこの原理を利用して抜く。
※ペグ打ち込み時に、埋め込みすぎないようにしておくこと



2) テント本体 四隅のサイドロープを調整具で最長にする。
白い突起にかけ、テントの底面を浮かせ、風にあたるように
する。



3) テント底上げ完了!!!

濡れている部分をぞうきんで軽く拭いておくと、乾きも早い。

※テントはこの状態で乾かしておき、朝食の時間にする

テント撤収

テント撤収にあたって

- ・借用したテントは必ず乾いた状態で収納して、返却しなければならない。底上げで乾ききらなかった部分は、持参したぞうきんで、水気を拭きとること。
- ・用具は壊れやすいので、丁寧に扱うこと。
- ・引率者責任の下、用具、道具の紛失がないか確認すること。特にペグの本数は、しっかりと確認すること。
- ・破損があれば、必ず報告すること。
- ・忘れものがないか、各班でしっかり最終確認。
- ・次回使う人たちのために・・・



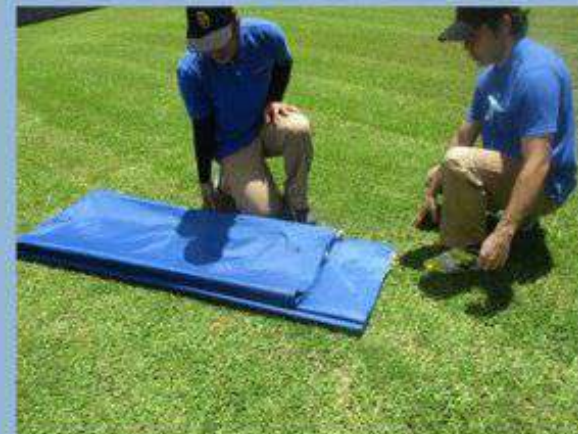
1) 白い突起にかけていたロープをはずす。
フライシートのペグを全て抜く。
抜いたペグは、なくさないように管理しておく。



2) テントの両サイドに分かれ、1人が支柱ポールをささえ、1人が張りロープの調整具を緩めてペグからはずす。



3) 両サイドの支柱ポールを折れないようにそっと抜き取る。
この時、テントは地面に倒れた状態になる。
2本の支柱ポールは3つに折りたたむ。



4) フライシートを折りたたみ、横側によけておいておく。



5) テント本体のポールを抜き取り、2本に分解し、それぞれ3つに折りたたむ。先ほどの支柱ポール2本と合わせて、計4本のポールは、数を確認して収納袋へ入れる。




6) テント本体を折りたたみ、先ほど折りたたんだフライシートの上において、小さくまるめていく。収納袋に入れる。



7) ペグは、紛失がないか、しっかりと本数を確認してから、収納袋へ入れる。引率者は、各班の収納時に立ち合うか、用具室に片づける前に、再度開けて本数を確認する。



8) テント撤収が終わったら、各班ごとに、担当引率者の前へ借用した用具一式を持っていき、不足がなければ、用具室の元にあった場所へ返却する。当所職員も引率者へ確認に立ち会う。



みなさん
お疲れさまでした！
いつもきれいに使用していただき
ありがとうございます！！！！